

お父さま・お母さま・お子さま
家族みんなで消費生活のことを考えましょう

おかいものに いこう！ ワークブック



ワークブックとがんばりシートの使い方

このワークブックは別冊の絵本「おかいものにいこう!」(幼稚園・保育園(所)に設置しています。)の「やってみよう」のコーナーを基に作られています。また、別紙「がんばりシート」もお使いいただき、お子さまと「消費生活」について考えてみてください。



【使い方】

- 1: スタートする前に、お子さまと相談し、「がんばりシート」右下の「ゴール」の部分に、次ページからのチャレンジ項目すべてをクリアした時の約束ごとや目標を書きましょう。
「〇〇を買ってあげる」、「〇〇に連れて行ってあげる」など、何でも構いません。
- 2: 目標に向かって、このワークブックのチャレンジ項目①～⑩を実践してみましょう。
チャレンジ項目は、別冊の絵本「おかいものにいこう!」と同じ内容です。主人公にやんた君が、生活の中の様々な場面で消費生活について学んでいくという内容です。
※チャレンジの内容によって、実際に体験できないものもあるかもしれません。その場合は「ごっこ遊び」などを通して学んでみましょう。ごっこ遊びでクリアできた場合でもシールを1枚あげるなど、使いやすいように使っていただいても構いません。
- 3: できたチャレンジ項目の箇所にシールを貼りましょう。
「がんばりシート」のシールを貼る部分の数字は、このワークブックのチャレンジ項目に対応しています。
チャレンジ項目をクリアできたら、シールを1枚あげましょう。1項目に貼れるシールは1枚だけです。このチャレンジは、お子さまだけでなく、ぜひともお父さま・お母さまも一緒になって、頑張ってみてください。
- 4: シールが10枚揃ったら、ゴールに書いたことを実行しましょう。

やくそく したことは
きちんと まもろう



「約束, 守っていますか」

お子さまへは「約束したでしょ」と言いながら, お父さま・お母さまからお子さまにした「約束」は守られているでしょうか。大人にとっては些細な約束ごとでも, お子さまにはとても大切な約束です。大人も守ってあげましょう。

最初のチャレンジは「約束をしたら, きちんと守ること」です。一見簡単のように見えて, とても難しいチャレンジです。ぜひお子さまの頑張る姿を見守ってあげてください。

「なぜ, 約束は守らなければならないのか」, また, 「約束を守れなかったときはどうするか」など, お子さまと一緒に考えてみてください。

おねだり するまえに
ほんとうに ほしいか
かんがえよう
なぜ ほしいのか
おとうさん
おかあさんに
ちゃんと
おはなし しよう



「考えずにものを買って与えていませんか」

普段からお子さまが「欲しい」というものを、ついつい何も考えずに買い与えていないでしょうか。それなのに急いでいるときなどには、お子さまの意見を聞かずに「買いません!」と怒鳴りつけてしまう…。

お子さまは、このようなお父さま・お母さまの言動をよく覚えているものです。「何をかうか」について、まず、お子さま自身がよく考えてみるように促しましょう。そして、時には我慢することも必要ですので、お子さまが「何が」「どういった理由で」欲しいのか、お父さま・お母さまにちゃんと話せるような、リラックスした対応を心がけ、買わないときは「なぜ買わないのか」、「どうすれば買えるのか」などを一緒に考えましょう。

また、「衝動的に買って失敗した」、「使わないのに同じようなものが幾つもある」など、お父さま・お母さまにも買物の失敗がきっとあるはず。お子さまにもわかるように、ご自分の体験談を話してみるのも良いかもしれませんね。

もっているものを
たいせつに しよう



「ものを大切に使いましょう」

現代は安く買えるものや、使い捨てのものが多く、「壊れたら買い直せば済む」と考えてしまいませんか。お父さま・お母さまがこのような「もの」との付き合い方をしているのを見て、お子さまも同じように考えてしまうかもしれません。

お子さまには、ものを大切にできる人に育てて欲しいものです。

ものは修理・修繕をし、大切に使えば愛着が湧き、長く使うことによってたくさんの思い出がつまった、かけがえのないものになっていきます。

まずは、お子さまにとって身近な「おもちゃ」などから、ものを大切に使う方法について一緒に考えてみましょう。

ほんとうに いるものを かうように しよう
じぶんに あったものを
かうように しよう



「自分に合ったものを選んでいますか」

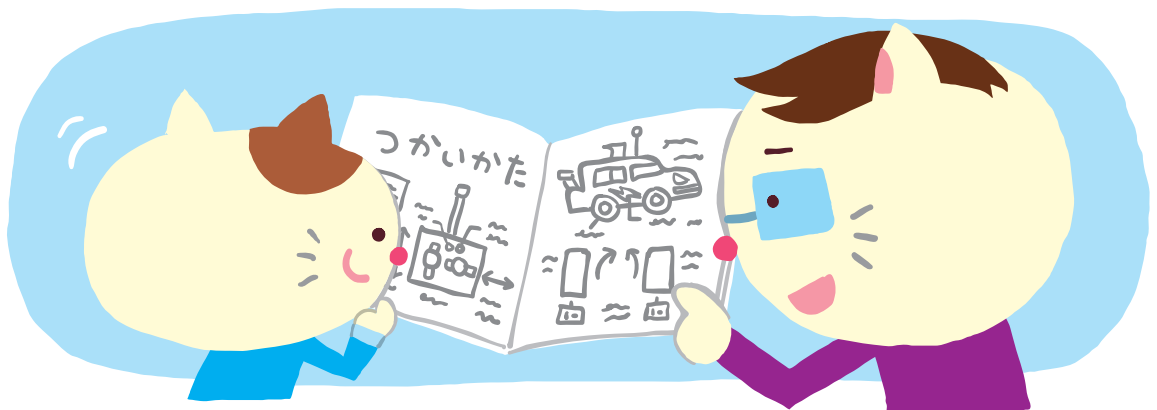
「CMで見たから」「お友だちが持っていたから」「パッと見て欲しくなったから」などと言って、何となく買い与えてしまっていないでしょうか。

買物は、本当に必要なもの、自分に合ったものを選択することが大切です。

例えば、上のイラストのように、お子さまの年齢ではまだ早いおもちゃなどを言われるままに買い与えてしまい、結局うまく使えず壊してしまうことがあるかもしれません。

まずは、本当に必要なもの、例えば運動会や遠足で使う運動靴などを買うべきでしょう。時には、背伸びしたものを買うことが必要なときもあるかもしれませんが、買物は、「適切な選択」をする力を身につける良い手段でもあるので、一緒に考えてみてください。

かったものの
「つかいかた」
「あそびかた」を
きちんと べんきょうしよう
ただしく つかわないと
こわしたり
けがをしたり するよ



「身近なものの使い方」

携帯電話、テレビ、電気ポット、洗濯機…、お子さまならおもちゃなど、身の回りには色々な製品があります。そうしたものの使い方を、説明書などを見ながらお子さまに教えてあげましょう。

また、お子さま自身が「どうやって使うのか」に興味を持てるように、製品に表示されているマークの意味についても少しずつ説明していくのも良いでしょう。

マークの中には危険を教えてくれるものもありますし、お父さま・お母さまもマークの意味を知ることによって、より一層安全に製品を使えるようになります。そうして、くらしの中にも危険があること、ものの安全な使い方というものに気がつくようになりましょう。

おかねと ものが
こうかん できることを しよう
おかねは
どうやって
つかうのかを
はなしあおう

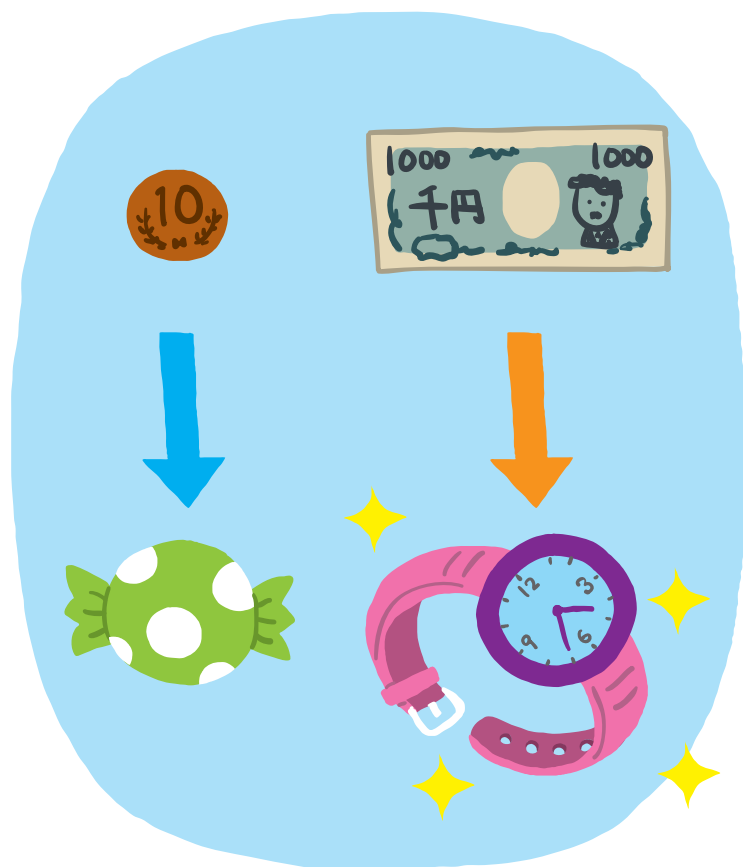


「なかなか教えにくいお金のこと その1」

一番最初に教えなければいけないのは、お店に並んでいるものは商品で、お金と交換しなければならないということ。「そんな基本的なこと…」と言って教えないまましていると、ふとした拍子に悪気なく万引きをしてしまう可能性も無いわけではありません。基本的なことこそ、一緒に買物に行ったとき、丁寧にお子さまにお話をしあげてください。

また、「何が欲しいのか」を相手に伝える必要があります。自分の欲求を言葉で伝えられないと、本人にとってもストレスになりますし、お父さま・お母さまにとっても歯がゆいこと。お父さま・お母さまに伝えられるようになった後は、店員さんにも伝えられるように教えていきましょう。

どの おかねで
どの くらいの
ものが かえるか
おとうさん
おかあさんに
おしえて もらおう



「なかなか教えにくいお金のこと その2」

「どのお金でどのくらいのものが買えるのか」。これはお子さまにとって、実は難題です。「紙のお金より硬貨の方が高いと勘違いしていた」というようなこともあります。

この問題を教えるために、例えば、10円、50円、100円で買えるものを自由に選ばせてみるのはどうでしょうか。お子さまには自分で選べる楽しさもあり、数字に興味を持つ入口にもなります。

また、実際にお子さまに選ばせる必要はないものの、レジに並んだ時など、紙のお金を使う際には紙のお金の使い方をお話してみるのはいかがでしょうか。

おとうさん
おかあさんと
そうだんして
おつかいに
いってみよう
きめたものを
かってこよう



「おつかいから学ぶ」

お子さまを一人で外出させるのは心配なもの。しかしながら、お子さまは、成長するにつれ、少しずつ1人でできることが増えていきます。

自分で買物に行くこともその一つです。

一人で外出させるのが心配なら、そっと見守ることができる、見晴らしの良いお店などでのおつかいはどうでしょうか。金額や買うものを決めてお金を渡し、ものを選んで買って来てもらうなどの方法で、お金を出してものを買うという仕組みを学ばせてみませんか。

こまった ことが あったら おとうさん おかあさん など おとなの ひとに おはなし しよう

※困ったことがない場合

トラブル時を想定して「ごっこ遊び」をしてみましょう。
(三輪車が壊れてしまった、お友だちがケガをした、など)
トラブルの内容をお子さまが説明できた時に
シールを1枚貼りましょう。



「困ったときに黙りこんでしまわないように」

トラブルが起こったときに、お子さま自身が、その状況を説明できない・助けを呼べないと、深刻な問題に発展する可能性があります。また、自分の思いどおりにならないときに、何も言わず相手に暴力をふるってしまうようなことにもなりかねません。

困ったことが起こったとき、家族などの身近な人に言葉で伝える力を身につけるように教えていきましょう。

また、実際にトラブルが起こった際に、お父さま・お母さまが大声を出したり高圧的になったりすると、お子さまはその姿を見て、説明ができなくなってしまうからです、できる限り平常心でお子さまの言うことを聞くようにしましょう。

なぜ きまりを
まもらなければ
いけないか
いっしょに
かんがえよう



「“きまり”と言われるものを見直してみましょう」

電車に乗るときは切符を買う、電車を待つときは列に並ぶ、ホームへのエスカレーターは止まって乗る（駆けあがらない）など、電車に乗るだけでも「きまりごと」はたくさんあります。

大人になれば、様々な場面できまりごとは増えていきます。

例えば、「契約」などです。いずれは、こうした法的なきまりにも関わっていくことになるので、まずは、日々の生活の中にある大切な「きまり」について、見直しながら、お子さまと話し合ってみるのはいかがでしょうか。

がんばりシート

【お父さま・お母さまへ】最初に、お子さまとお父さま・お母さまの間で、がんばりシート達成時の約束ごとや目標を記入しましょう。シールはワークブック1項目達成時に1枚だけ貼ります。同じ項目を何度クリアできてもシールは1枚だけです。この機会に、お父さま・お母さまもお子さまと一緒に「消費生活」について考えてみてください。



